

広報

ながはま

1

月号

2005

(特別号)



表紙によせて

12/26

長浜町合併50周年記念式典
並びに長浜町閉町式典

(8・9・10ページに関連記事)

主な内容

- P 4 第4回定例会
- P 8 長浜町合併50周年記念式典
並びに長浜町閉町式典
- P 10 長浜町50年のあゆみ

第四回定例会

長浜町として最後の定例議会となる平成十六年長浜町議会第四回定例会が、十二月十五日から十七日までの三日間の会期で開かれました。

今回の議会では、四人の議員による一般質問に続き、長浜町立保育所設置条例の一部を改正する条例、平成十六年度長浜町一般会計補正予算（第五号）、大洲喜多合併協議会の廃止、長浜町土地開発公社の解散などの議案六十一件が、いずれも原案のとおり承認・可決されました。

また、例月出納検査や寄付採納報告の議会報告案件四件もすべて受理採択されました。

可決された主な議案、一般質問などのあらましをご紹介します。

林地崩壊個所の

復旧工事など

十六年度一般会計補正予算
平成十六年度長浜町一般会計予算（専決分を含む）に一億四千三百七十五万六千円が補正され、予

算総額は、五十六億一千四百六十八万円となりました。

なお、今回補正された主なものは次のとおりです。

【災害復旧費】現年度公共土木施設災害復旧費として、町道大久保線災害復旧工事ほか十一件の災害復旧工事に係る工事請負費七千六百五十七千円を補正。

【農林水産業費】治山事業費として、台風21号および23号により、被災した林地崩壊個所の復旧にあたる工事請負費等一千二百二十七万六千円を補正。

長浜町立保育所

設置条例の一部を改正

長浜乳児保育所は、財団法人

「長浜奨善会」の経営により、昭和四十六年四月に開園し、現在に至っていますが、昨今の少子化による児童の減少による影響等により大変厳しい経営状態で、運営が困難になってきている状況から、長浜町の保育業務の機能強化および児童福祉の観点等から条例の一部を改正し、町立に移管して運営することが決まりました。

なお、十二月一日現在、児童二十二二人（定員四十五人）が入所し、職員七人で運営しており、そのまま町に引き継がれます。

大洲喜多合併協議会の

廃止

平成十四年十二月の定例会において大洲喜多合併協議会の設置についての議決をし、同十五年一月一日より、大洲市・長浜町・肱川町・河辺村の合併について協議を重ねてきましたが、同十七年一月十一日から当該四市町村を廃し、その区域をもって新たに「大洲市」を設置することになりましたので、同

年一月十日で大洲喜多合併協議会を廃止することが承認されました。

長浜町土地開発公社の

解散

長浜町土地開発公社の設立団体の長浜町が、大洲市・肱川町・河辺村と合併するため、平成十六年五月三十一日の合併協定書に調印のとおり、長浜町土地開発公社を合併前日の同十七年一月十日で解散することが承認されました。

一般質問

町長としての二期八年の

総括と去就について



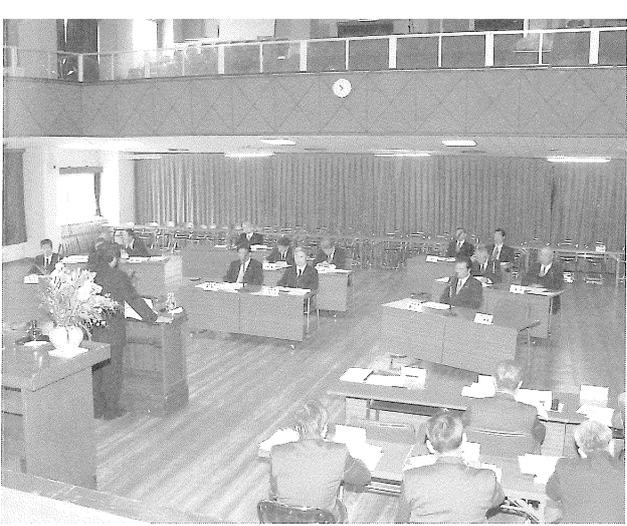
二宮 淳 議員

し方をされるのか。

合併後は 一市民として

質問：町長としての八年を振り返って、どのような総括をされるのか。また今後どのような身の処

答弁（町長）：私は平成十年に二期目を就任させていただいたが、まさにその時期というものは、山鳥坂ダム建設分水問題で町民を含め議会においても大きな議論を重



ねていた時期であった。また後半では、市町村合併という問題を抱えて、これも議会や住民の皆さん方とともに考えてきた時期でもあった。

振り返ってみると、この二つの案件というものは、本町あるいは長浜町の町民においても、将来に大きな影響を及ぼす案件だということ、それぞれに真剣に取り組んできたつもりである。

私は、当初、平成十年に就任をさせていただいた時に、ダム問題も含めて、この問題は、住民と議会と行政が三位一体となって真剣に取り組み、長浜町にとって間違いない判断をしなければならぬということを示した。この問題については紆余曲折があったが、今日、河川整備計画が策定され、これから三十年をかけてどのように具体的に安全な地域づくりをしていくか。また将来、百年に一回の洪水に耐えられるだけのものを持つていくという方向性ができたことは、本当に議員、また町民の皆さんとともに精一杯の努力をした成果だと思っている。

私は、やはり住民の代表である議会において、真摯な議論がなされること、行政は、住民に正確でしつかりとした説明を行い、住民の意見によく耳を傾けることが非常に大事なことであろうと思っ

ている。まだまだ不十分な点がある。またまだ不十分な点がある。たかと思われるが、考えられる、できる限りのことは行ってきたつもりである。

後半、市町村合併という問題がピークになり、約二年間をかけて取り組んできたが、これも本町に本町において、また住民においても大きな問題であった。議会、また住民の皆さんの地域懇談会やアンケートをもとにしながら、この問題についてどう判断をすべきか。結果、我々は、大洲市、肱川町、

河辺村との合併を選択したわけである。いろいろな意見があったかと思われるが、二年前と現在のこの国、また地域の情勢をみていると、やはり合併という道は避けて通れない選択であったと思っ

そのような中で、一月十一日をもって新大洲市という誕生を迎えることになったことは、議員、また町民の方々とともにこのことをしつかりと受け止めて、合併してよかったという方向付けをこれからしていかなければならぬと思っ

二期目以降の六年間、長いようで短かった感じもするが、充実した六年間であったというように自負している。

合併後のことについての身の処し方について、私はいろいろと政治の道というものを選択しながら今日まできたわけだが、新しい大洲市をスタートするうえで、どういう選択をすべきかを考えてみた時、一市民となって今までご指導いただいた、また経験を積ませていただいたことを、国や行政に頼るといふ身の処し方から、国からあるいは地域に対して、自分がで

きることは何だろうか、これから一市民として真剣に考えていきたいと思っ

しても、新しい大洲市が本当にこの厳しい時代の中で着々と住民の負託に応え前進するような形になるように、一市民として努めていきたいと思っ

台風21号・23号による

災害について

肱川の 河川改修について



上 満 武 議員

国・県の指令に基づき 順次、復旧を

質問：今回の台風の災害状況および被害額、また復旧の見通しはどのようになっているのか。

答弁（町長）：今年、台風23号までで日本上陸は十個となり気象台の統計開始以来、最多となったが、本町もその影響を受け五個の台風（台風10号・16号・18号・21号・23号）が町内全域に多くの被害をもたらした。台風21号・23号の被害状況等であるが、九月二十九日から三十日に来襲した台風

21号では、一日の最大雨量は一三六ミリであり、一時間の連続雨量は三九ミリの集中豪雨であった。この台風における被害のうち、住家の被害では背後の山地崩壊による土砂流入が二件発生し、非住家でも暴風により損壊を受けている。その他の被害では、町道の公共土木施設で六件、被害額約二千九百三十万円、小規模災害（町単独災害）では、四十一カ所、被害額約五百八十万円となっている。

次に、十月十九日から二十日に上陸した台風23号では、連続降雨量は二一三ミリに達し、一日最大



合併後の身の処し方について述べる西田町長

雨量は一八六ミリであった。その上、最大瞬間風速が三五・四メートルを記録し、平均風速も二〇メートル以上が七時間も連続して吹き荒れ、近年まれにみる猛烈な強風と集中豪雨が重なり、死者が出るなど痛ましい人的被害や、住宅でも全壊ならびに半壊が各一件発生するなどの甚大な被害と併せて、町内各地で倒木の被害も多く発生したものである。また、法面崩壊や生活道路の損傷など、その被害額は町道の公共土木施設で八件約四千三百六十万円をはじめ、小規模災害(町単独災害)は現時点で、八十六カ所・被害額約九百五十万円となっている。これらの災害復旧については、町単独災害では日常生活に支障の起さないよう道路の土砂取り除きや水路閉塞(いそく)の土砂取り除き等、緊要度の高い箇所から随時復旧を図ったところであり、赤道等についても、逐次行っていく考えである。

また、国庫負担による公共土木施設災害においては、まだ国の災害査定が終わっていないので復旧には、今しばらく期間を要するところである。

農林水産関係の被害状況について

では、まず台風21号の農業関係被害として、施設キューリ〇・一六ヘクタールに対する被害額が四十万円、農業用施設災害として、農道の路側崩壊等十一件五百七十九千円、農地災害として、畑の崩壊一件二十五万円、林道災害として路側崩壊等二件二百二十九万円、治山災害として山腹崩壊一件八十三万円、合計一千六百三十一万九千円となっている。

また、台風23号の農業関係災害として、温室みかんハウスのビニール被害六件八万五千円、温州みかん被害一八三ヘクタール、一千三百七十二万五千円、キウイフルーツ被害四四ヘクタール二千六百四十万円、農業用施設災害として、農道の山側崩壊等四件七十一万四千円、林道災害として路側崩壊一件三百五十万円、治山災害として山腹崩壊一件二百五十万円、漁港施設災害として護岸破損等十二件百八十九万七千円、合計四千九百八十二万一千円となっている。

これら災害に対する復旧については、農業関係の災害については、県単事業として農作物の樹勢回復、害虫防除等の支援制度が明らかになっているが、JA等関係機関と

協議の結果、その採択基準に該当しないため自主的な復旧をお願いしているところである。また台風21号の小規模災害についてはすでに復旧を完了し、さらに国庫補助の対象となる災害については、今年中に査定申請等の事務手続きを終了し、国・県の指令に基づき順次、復旧を進めることにしている。さらに台風23号についても農林漁家の生産活動に支障がないよう、早急に復旧を進めたいと考えている。

なお、大和川沿いの穂積・下須戒地区の山林約四七ヘクタールにおいて、倒木等山地崩壊が発生し今後、二次災害の発生を懸念して



大和川沿いの山地で発生した倒木等の山地崩壊(10月20日午後6時20分ごろ)

いたが、県林業課のご理解をいただき、当面災害を受けた約四七ヘクタールのうち約一六ヘクタールについて、平成十六年度復旧治山事業として、谷止工・土留工・植栽工を施工する予定となっている。また、沖浦・柴・下須戒の林地崩壊した三カ所については、県の治山事業五カ年計画の中で、できるだけ早期に施工できるように要請していきたいと考えている。

公共施設の台風による災害については、台風16号から台風23号まで四回の台風来襲によるもので、そのうちの大部分は、強風による屋根瓦のズレや剥離および窓ガラス等の破損が主なもので、台風18号が三十件、台風23号が十六件など、合わせて五百二十八万四千円(被害総額)となっており、補正予算や予備費充用処理によりほとんど修繕は終了している状況である。公共施設については、町村有建物災害共済制度に加入しており、被害額の約半分の二百五十八万六千円を保険金で賄うよう収入を見込んでいく状況である。

バランスのとれた整備を

質問：肱川河川改修について、今後の町内の改修計画と見通しについてはどうなっているのか。

答弁(町長)：本年五月十三日に安全安心の確保と清流肱川の復活を目指した「肱川水系河川整備計画」が、国土交通省四国地方整備局および愛媛県において四国で最初に策定され、今後約三十年をかけた重点的に投資を行い、早期整備を図っていくことになっている。

計画では、下流域にあたる長浜町内の無堤地区対策を優先し、計画中期の約十五年間で治水安全度を約四十年に一回の洪水に対応した整備を実施する内容となっており、中流域にあたる大洲市内については、下流域の整備進度を勘案しつつ、順次、河川整備を実施することとなっている。

今年の台風16号による洪水では、大洲第二地点の水位が平成七年の洪水を約一メートル上回る戦後二番目の大洪水となり、肱川流域において九百六十六棟の建物が床上床下浸水の被害を被り、長浜町内

においても四十棟の住宅が床上下浸水したものである。この中で久米川地区については菅田地区同様甚大な被害を被り、特に今年は三回も浸水の被害を被った。

このことから、愛媛県では災害復旧事業と改良事業を併せた災害助成事業により、本年度から四カ年をもって久米川の築堤工事等に着手するもので、計画では下流に影響を及ぼさないよう、現在の脇川の河川整備水準である十五分の一規模以下程度の治水安全度となるよう、より低い暫定堤防の高さで実施する計画となっている。議員さんご心配の遊水池としての機能を失うのではないかとこの件については、台風16号では東大洲市街は暫定堤防および二線堤を洪水が越流し遊水池となっており、久米川においても十五分の一以上の洪水が発生すれば、堤防を洪水が越流し遊水池としての機能を果たす予定となっている。しかし、十五分の一以下の洪水時には、一時的に水位の上昇は早まるが、久米川の整備に伴う下流域への影響はないものと考えている。

なお、長浜町内の河川改修状況については、継続して実施中の個

所として、大和（郷）地区の水防対策特定河川事業の平成十八年度完成を目指し取り組みを行っており、長浜中学校校庭横についても、下流に向け順次実施しているところである。

また、新規箇所として、大和（上老松）地区については、河川整備と併せた土地区画整理事業の早期実施に向け取り組みを行っており、脇川口漁港から河口および対岸の小浦・沖浦地区についても、昨年度に地形測量等を完了し、現在、早期着手を目指し、計画の細部について検討を行っているところで、他の箇所についても順次、計画検討し早期整備を目指しているところである。

今回の台風の影響で、東大洲にできた二線堤には効果があった、ダムはいらないという地域住民の中には言われる方がいる。しかし私は、二線堤というものは、あくまでも貯留施設だと思っている。計画されている山鳥坂ダムや既存のダムの治水容量というものは、この貯留容量よりもはるかに洪水調整能力はあるわけである。堤防とダムによる洪水調整を河川整備計画で決定したが、このことは間

違いない判断だと思っている。今後、安全で安心な地域づくりのために、一日も早く、上流から下

合併後の長浜町の重要施策について

特別職等報酬の取り扱いについて

国道三七八号の補修について

可能な限り新市建設計画の中に取り込んでいる

質問：長浜町の重要施策は新市建設計画にも盛り込まれていると思うが、その中の商工業・農林水産業・観光振興および内港埋め立て事業の今後の対応を伺いたい。

答弁（町長）：合併協議会においては、合併特例法に基づき、合併に際して、合併関係市町村の住民に対して新市の将来に関するビジョンを示し、新市のマスタープランとしての役割を果たすものとして、議員の皆さんのご理解を得て、新市建設計画を作成している。新市建設計画は、新市のソフト、

流までバランスのとれた整備ができるようお願いしたいと思っている。

では可能な限り取り込んでいると思っている。



日高照友 議員

ハード両面を含めたまちづくり全般のマスタープランとなるものであり、本計画の実現を図ることにより、一市二町一村の速やかな一体性の確立を促し、住民福祉の向上と新市全体の均衡ある発展を目指すものとしている。

なお、本計画は、合併後おむね十年間について、新市を建設していくための基本方針を実現するための主要事業、公共施設の統合整備および財政計画を中心として構成している。

この新市建設計画の中には、長浜町の総合計画、第三次開発計画、過疎計画等の各種計画の中で位置付けている重要施策や事業につい

この建設計画については、当町に

関する部分については、まず、新市建設の基本方針の中の地域別整備方針においては、長浜地域を「海の幸と活力のまちゾーン」と位置付け、「長浜地域においては、海の玄関口として、また、主要道路の結節点となる地域中核拠点として、港湾内港部の埋め立てにより新たな土地を創出して、都市機能を整備した活性化拠点や観光拠点を備えた活性化拠点や観光拠点の整備、新たな住宅地や港湾施設の整備を行い、脇川あらし、開閉橋、坂本龍馬脱藩の川の道、いろは丸の母港など創造的な海の観光の充実を図るとともに水産業や食の魅力を活かした観光産業の振興を図り、また、下水道の整備や洪水、高潮防止の取り組みなど居住環境の整備を図る。」としている。

第一次、第二次、第三次産業の振興に関しては、新市の施策の中の「活力あるまちづくり」で、新市全体についての産業振興施策を記載している。

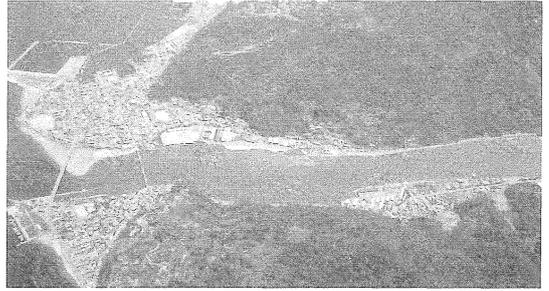
一番目に、第一次・二次産業の振興として、農林水産業の振興、工業の振興を取り上げているが、

とりわけ、漁業の振興については、町全体の施策の具現化に配慮しており、二番目の商業・観光の振興として、商業サービス業の振興と観光振興を取り上げ、三番目に、雇用の確保・創造を取り上げ、それぞれの主要施策について記載している。

主要施策を実現するための主要事業として、長浜町に係る主要事業としては、農林道、漁港、魚礁等、海の駅（水族館）などの整備事業をあげている。

また、内港部埋め立て関係の事業については、新市の施策の中の「快適さらくまちづくり」の主要事業として第三次開発関係の事業をあげている。

なお、この新市建設計画の実施にあたっては、予算の確定や事業個所の決定および各事業間の優先度の判断等、不確定な部分もあり、最終的には事業が具体化する段階で、すなわち、新市において判断せざるを得ないことから、新市建設計画は、新市で新たに策定される総合計画の「振興計画の基本構想的な位置付け」としていることは、ご理解いただいていると思っ



内港部埋め立て事業については、新市の施策の中に盛り込まれている

される長浜地域審議会の委員については、合併までに、委員候補者の選考を行い、新市に引き継ぎたいと考えている。

商品券事業については、事務事業の調整の中で、新市において廃止するというようなことにはしていないが見直すことにはなっていない。見直しの時には、商品券事業の実績と効果が評価されると思うので、商品券事業の効果を高め、長浜町商店の活性化に効果的な手段であることの実績を示していくよう努力いただきたいと考えている。

また、現在、当町が補助している農林水産業振興のための補助金、商工観光振興のための補助金についても、新市全体の中で見直しを検討されていくが、当面、ほとんどの補助金については、平成十七年度においては、制度が維持されるよう調整している。

身分や報酬に差があつてはならない

質問：大洲市の一部の方が、議員報酬について、大洲市議会議員の報酬まで引き上げるのなら、住民運動を起し議会の解散をちら

つかせていることについて、町長の考えは。

答弁（町長）：一部の大洲市民が誤解しているという議員報酬については、十月二十八日開催の第十九回合併協議会において議論されたが、意見集約が出来なかったため、去る十一月二十六日に開催された第二十回合併協議会において、四市町村長で取りまとめた、議員報酬についての細部調整方針を報告している。

いろいろな意見、考えがある中で、現時点では、明確な方針とすることは困難で、新市において、各方面の意見、特別職報酬等審議会の意見、法律的なことなどを検討いただき、最終的には新市の議会で決めていただきたいということとで、また、条例に報酬額を明記する必要があることから、調整方針は、暫定報酬ということで、四市町村の現行報酬としている。

第二十回合併協議会において、岡議長が、「議員の報酬については、第一に、将来のまちづくりを旨し、行政改革の推進を進めること等の合併の意義。第二に、在任特例の意義。第三に、民意の尊重、現在の社会情勢および新市の

財政負担の考慮。第四に、議員平等の原則を考慮して、速やかに統一した報酬額が決定されなければならない。報酬に格差をつけるということは、合併の最大条件である対等合併や平等の原則、一体性の確保、一体性の醸成などが完全に無視されることになり、一つの市になるということが理解されていないということであり、議員としての同一職務、同一報酬という対等、平等の原則が大きく崩されることになる。また、最大格差は、一・九七倍あり、議員の誰かが訴えれば、法的に是正措置をとられる恐れがある。」との意見を述べられている。

また、日高合併特別委員長が「統一する」という文言を追加するよう修正意見を述べられている。私も原則として、議員の報酬は当然、同一の報酬でなければならぬとの考えで調整を進めてきた。一部の市民団体の意向を取り上げ、在任特例期間に限っては、現行報酬でよいとする大洲市議会の意見もあり、また、先送りした形で、新市において特別職報酬等審議会や、新市の市民の意向等も反映した中で決められるべきとの意見も

あり、現時点ではこれらのさまざまな意見を集約することは困難で、あのような調整となつていくことについては、ご理解いただけるものと考えている。

議員報酬は統一されるべきという、長浜町、肱川町および河辺町の議会側の意見が、大洲市の報酬額に統一すべきと受け取られていること、また、統一する場合に大洲市の議員報酬を下げても統一する必要はない、報酬を統一することが財政負担につながるといふ発想のもとで、在任特例をとつていふのだから、在任特例期間中は、今までの報酬でよいのではないかとはいふ意見がある。

私は、在任特例期間中といえども、新市の議員であるからには、身分や報酬に差があつてはならないとの考えであり、また、過大な財政負担を伴わないことも念頭に置くべきと考えている。

このことについては、新市において、民意がどこにあるのか、議員としての身分をどう考えるのか、合併協議会での意見を尊重しつつ、慎重に協議をしていただき、新市民が納得していただけるような説明を新市長が行つたうえで、議会

での判断を仰ぐべきものであらうと考えている。

県当局に要請を

質問：国道三七八号の路面の再

点検と補修の要望が地域住民からあがつているが、町長の考えは。

答弁（町長）：：国道は、最近道路が整備され交通量も多く、ま

た大型車の利用も多くなつていふ。そのことによる騒音公害等を、住民の方々は心配されていることと思われるが、県当局にその原因、また現状を調査をしていただき、改善の要請をしていきたいと思つているのでご理解をいただきたいと思う。

排水機場建設について



東 敦 弘 議員

整備計画に盛り込んで

質問：先般の新聞紙の投稿に對

して、四国地方整備局河川計画課長が、「白滝地区に排水機場の建設などの内水対策を行う。」と回答されていたが、この規模、排水容量、工期などを把握されていたらお聞かせ願いたい。

答弁（町長）：この件について

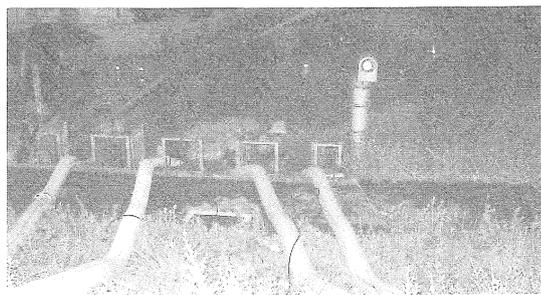
は、平成十六年十月二日付け、愛媛新聞の「読者の広場」の投稿に対し、平成十六年十月二十五日付けの同欄で、国土交通省四国地方整備局の野中典理河川計画課長が回答された内容と思われる。

このことについては、去る五月十三日に策定された「肱川水系河川整備計画」では、河道整備と併せて、山鳥坂ダム建設と鹿野川ダムの改造を行い、内水により大き

な浸水被害の発生が予想される、東大洲地区の都谷川と白滝地区の滝川等において排水機場の建設等、内水対策を実施する個所として位置付けられたものである。

しかし、工事の着手時期および工法ならびに規模等については、下流への被害を増大させないよう被害実績や浸水頻度、土地利用状況などを十分勘案し決定することとなつている。

一般にこういった排水機場の整備というものは、堤防が整備された次の段階で整備されるという形になつている。おそらく白滝においても、下流域の整備、治水安全度が確保されたうえで、検討さ



台風16号時は、排水ポンプ車による排水が行われた（滝川樋門 8月31日午前5時40分ごろ）

寄付採納

れるものと理解をしている。今回河川整備計画に、白滝地区に排水機場を設けるといふことを盛り込んだので、この整備計画というものは、時間はかかるかと思われが、一日も早く、その河川整備がなされ、排水機場が設置されることを新大洲市においても要請していきたいと思つている。そういった施設を設置することによつて、地域住民の安心安全というものが図られるものと思つている。

○長浜の末永喜久男さん：写真二十枚を町立図書館へ。

○川崎市の戎章夫さん：座布団他を長浜町へ。

○長浜の末永咲子さん：国登録有形文化財「末永家住宅旧主屋」他を長浜町へ。

○長浜の木村喜久男さん：写真十枚を白滝公民館へ。

○四国電力株式会社大洲営業所：街路灯二灯を長浜町へ。

○枚方市の三浦治三郎さん：商品券一万円分を長浜町へ。



功労者百十二人を表彰

長浜町合併五十周年記念式典

並びに長浜町閉町式典

平成十七年一月一日に、合併五十周年を迎える記念の式典が、十二月二十六日、長浜町体育館大ホールで開催されました。また、一月十一日に新大洲市としてスタートするにあたり、長浜町としての幕を下ろす閉町式典も併せて執り行われました。

当日は、関係者ら二百四人が出席、西田町長が、「五十年という節目の年を迎えるが、この間、国道三七八号などの道路網の整備や産業経済、生活環境、住民福祉、教育文化の社会資本の整備などが図られた。これらは幾多の先人たちの町づくりにかける情熱と町民の皆様方のご協力のたまものであり、深甚なる感謝と敬意を表するものである」と式辞を述べました。式では、長浜町に多大な貢献があった百十二人に表彰・感謝状が授与されました。なお、受賞された方々は次の皆さんです。

(順不同・敬称略)

町特別表彰

○特別自治功労者

西田 司

町感謝状

○合併四十周年以後の理事者

(6人)

上田 邦彦・日田 稻生

山下 國廣・真鍋 典秋

三井 前・松本 正志

○合併四十周年以後の議会議長

(4人)

菊地 儀明・田中堅太郎

東 信利・岡 孝志

○合併以後選挙により当選の議会議員・農業委員・選挙管理委員

菊地 健夫・石村 美菜

で十年以上在職した者

【議会議員】(7人)

渡邊 久義・田中堅太郎

岡 孝志・東 信利

垣見 芳彦・矢間 一義

菊地 儀明

【農業委員】(9人)

笹本 智章・兵頭 方平

徳田敬四郎・清水 武重

山本 薫・加納 勝利

中田 晋・西山 仙一

石山 悦弘

【選挙管理委員】(2人)

石丸 英雄・山本 達利

○合併以後、特別職の委員で十年以上在職した者

【学校医】(2人)

菊地 健夫・石村 美菜

【学校歯科医】(2人)

浦上 眞一・二宮 淳

【文化財保護審議会委員】(4人)

米岡 幸市・二宮 進

泉田 勇・渡邊仁之助

【公民館長】(5人)

紙岡 清成・宮下 一夫

畑中 和夫・友澤 敏

大成 淳

【区長】(46人)

山本 久雄・山田 信一

白石 龜徳・高岡 伸好

武元 廣芳・一色 壯一

川口 隆善・水口 時夫

高橋 亮・武田 守

武田 剛・谷 勝國

竹内時三郎・美野 石吉

合田 正憲・井上 邦敏

新江 時行・矢野元喜通

世ノ下弘俊・中見 藤雄

中伊 龍二・田中 利徳

増田典一郎・菊地 稔

村橋 敬・菊地 道乗

松田 重高・中田 利久

山本 數政・大西 彌市

松田 英丸・窪 憲一

坂石 美明・藏田 敏雄

後藤 保夫・久保 貞夫

城本 音松・松本 正雄

矢野 武範・惣谷夫二郎



特別自治功労を受賞された西田司さん



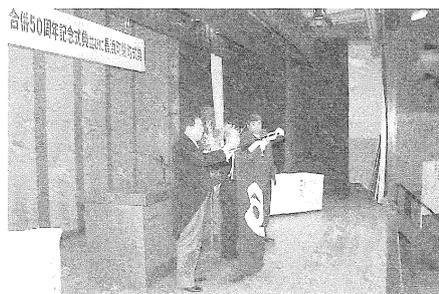
林 富美雄・吉本 武夫
 小西 勝歳・小西 長幸
 沼田 高幸・坪内 幹男
【民生児童委員】（12人）
 白形 友江・藤岡 弘
 藤渕季志叔・城ヶ瀧三樹雄
 久保 正甫・藤渕 一典
 松浦 悦美・安川千鶴子
 二宮 福見・西宮 幸子
 山中 良子・平田 豊子

○勤続三十年以上で在職している
消防団員（12人）
 西山 和夫・矢野 常義
 山本 久雄・湊 隼人
 松浦 正夫・清水 志朗
 松岡 昭夫・岡田 好光
 高澤 宗一・浪本 忠則
 石井 良子・畑山 泰典

一月七日には閉庁式を開催
 合併に伴い長浜町役場を閉じる
 長浜町閉庁式が一月七日、町職員
 約百三十人が出席し、開催されま
 した。
 町体育館で開催された式では、



合併50周年の記念品として、全世帯に配布され
 た長浜町の記録ビデオ「大河の神秘に出会う町」



閉庁式典の締めくくりとして行われた
 長浜町旗の降納<西田町長(左)と岡議長>



職員の代表から感謝状を受ける西田町長

西田町長が、「新しいスタートに
 あたり先人たちの努力というもの
 を今一度思い起こし、大きな目標
 に向かって今後の活躍を心から期
 待したい」とあいさつ。来賓で出
 席した岡町議会議長は、「今後、
 我々議員も新たな気持ちで自信と
 誇りを持って邁進したい。職員
 皆さんも長浜地区また住民、新大
 洲市のため英知を遺憾なく発揮し
 ていただきたい」と職員らにエー
 ルを送りました。

長年、町政発展に尽くされた感
 謝の気持ちを込めて、職員一同よ
 り西田町長、丸山助役、叶本教育
 長に感謝状と花束の贈呈が行われ
 式は滞りなく終了しました。

**町民の皆様へ
 退任のごあいさつ**

私も在任中は、「豊か
 に輝く海と川と緑の活力
 ある町」づくりを目標に
 鋭意努力を重ねて参ると
 ともに、皆様方には温か
 いご支援とご協力を賜り、
 大過なく職務を全うする
 ことができました。ここ
 に謹んで厚くお礼申し上
 げます。

一月十一日より「大洲
 市」として新しくスタ
 トいたしますが、本格的
 に始動した自治会制度に
 おいて、「地域を輝かせる
 ために自分たちには何
 ができるのか」を考え、各
 地域が固有の財産や特性
 を生かし活力ある地域づ
 くりを邁進することが、
 誇れる故郷づくりの繋が
 るものと信じ、それぞれ
 の立場で今までの行政経
 験を生かし、新市発展た
 め微力を尽くして参りた
 いと存じますので、どう
 か変わらぬご指導とご厚
 誼を賜りますようお願い
 申し上げます。

町長 西田 洋一
 助役 丸山 壽一
 教育長 叶本 正

お知らせ 平成16年度愛媛県台風被災者義援金の配分について

平成16年中に発生した台風災害の被災者を救援するため、愛媛県、日本赤十字社愛媛県支部、愛媛県共同募金会、NHK松山放送局、NHK厚生文化事業団が共同で募集してきた義援金を、被災市町村に配分するための配分委員会が11月30日(火)に県庁において開催されました。

このことにより、長浜町においても義援金を受領し、各被災者へ配分されました。皆様のご協力ありがとうございました。

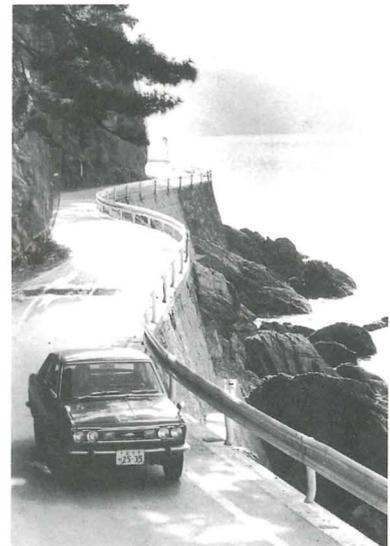
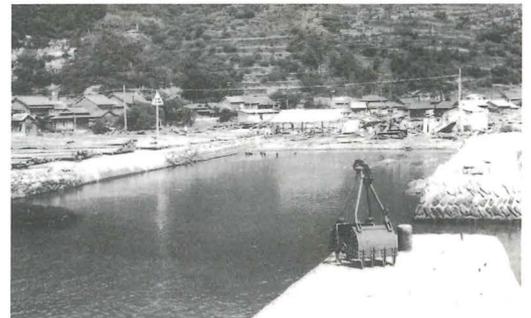
長浜町50年のあゆみ (主なもの)

昭和30年	1月	長浜町、喜多灘村、櫛生村、出海村、大和村、白滝村の6カ町村合併により新長浜町発足
昭和33年	6月	県道長浜保内線開通
昭和34年	4月	養老院(老人ホーム白山園)完成
昭和35年	4月	有線放送電話スタート
昭和36年	3月	長浜保育所、長浜港ふ頭完成
昭和37年	6月	長浜町ゴミ焼却場完成
	9月	喜多灘、豊茂保育所完成
昭和39年	2月	今坊隣保館完成
	11月	町体育館完成
	12月	シンボルマーク「町章」できる
昭和40年	2月	出海保育所新築
	3月	肱川から取水する新上水道完成
	12月	白滝診療所、櫛生隣保館完成
昭和41年	2月	大和保育所新築
	3月	豊茂診療所完成
	6月	出海公民館完成
昭和42年	2月	白滝公民館完成
昭和43年	4月	出海中を除く中学校が統合(写真)
昭和45年	9月	長浜臨海工業開発事業(第一期工事)着工
昭和46年	8月	青島に一般電気導入・終日電灯がつく
昭和47年	5月	長浜臨海工業開発事業(第一期工事)竣工
昭和48年	3月	大和公民館完成
昭和49年	10月	松山～大分瀬戸内線(伊予市～保内町間)が378号として一般国道に昇格(写真)
	11月	小浦に町営住宅完成
昭和50年	10月	常備消防署完成
	12月	長浜町誌完成
昭和52年	12月	新長浜大橋完成
昭和53年		国土調査事業スタート
	3月	長浜音頭完成
昭和55年	8月	長浜小学校改築
昭和56年	3月	町営住宅大和団地完成
昭和57年	10月	青島に一般電話開通
昭和58年	2月	豊茂小学校改築
昭和59年	2月	出海小学校改築
昭和60年	2月	柴小学校改築
	4月	長浜水族館閉鎖
	4月	長浜町合併30周年記念式典
	6月	長浜町臨海土地造成事業(今坊地区埋立工事)着工
昭和62年	5月	町立図書館オープン
昭和63年	3月	櫛生福祉センター完成
平成元年	11月	長浜町臨海土地造成事業(今坊地区埋立工事)竣工
平成2年	1月	青島コミュニティーセンター完成
平成4年	11月	第1回青年海外派遣(フランス)
平成6年	10月	ふれあい会館完成
平成7年	10月	長浜町合併40周年記念式典
平成9年	11月	長浜町保健センター完成
平成10年	3月	沖浦公民館改築
平成11年	4月	ごみの有料収集(7種分別)スタート
平成12年	1月	白滝小学校改築
平成13年	10月	白滝大橋完成
平成14年	1月	長浜町スポーツセンター、養護老人ホーム「さくら苑」完成
平成15年	1月	大洲喜多合併協議会設立
平成16年	2月	長浜中学校給食施設完成
	5月	「肱川水系河川整備計画」策定
	5月	大洲市・長浜町・肱川町・河辺村の合併協定調印式が行われる
	10月	長浜町誌続編完成
	12月	長浜町合併50周年記念式典並びに長浜町閉町式典



▲ 統合長浜中学校完成(昭和43年4月)

▼ 長浜中学校敷地造成前の姿



▲ 国道への昇格が決まったころの378号(櫛生～出海間の大野鼻付近)